

# 予算及び事業の経営方針

## 平成24年度予算の概要

### 1. 業務の予定量

区 分	水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
給水戸数, 給水事業件数及び排水戸数	12,121 戸	6 事業所	11,163 戸
年間総給排水量	3,450,020 m <sup>3</sup>	14,833,000 m <sup>3</sup>	8,093,000 m <sup>3</sup>
一日平均給水量	9,452 m <sup>3</sup>	40,638 m <sup>3</sup>	—
主要な建設改良事業	阿多田地区配水管 改良工事 22,000 千円  誠和団地配水池 配水槽改修工事 15,000 千円  南栄2・3丁目地内 配水管改良工事 18,500 千円	該当事業なし	小島汚水中継ポン プ場電気設備更新 工事 150,000 千円

### 2. 収益的収入及び支出

(単位: 千円)

区 分		水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
収  入	事業収益 (A)	519,445 千円	577,631 千円	777,684 千円
	営業収益	487,872 千円	575,536 千円	721,078 千円
	営業外収益	31,572 千円	2,094 千円	56,605 千円
	特別利益	1 千円	1 千円	1 千円
支  出	事業費 (B)	513,373 千円	527,224 千円	772,612 千円
	営業費用	476,614 千円	367,374 千円	647,500 千円
	営業外費用	32,758 千円	157,849 千円	121,110 千円
	特別損失	3,001 千円	1,001 千円	3,002 千円
	予備費	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円
差引額 (A) - (B)		6,072 千円	50,407 千円	5,072 千円

### 3. 資本的收入及び支出

(単位：千円)

区 分		水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
収 入	資本的收入 (A)	71,588 千円	224,517 千円	596,763 千円
	企 業 債	63,000 千円	223,900 千円	393,900 千円
	負 担 金	2,200 千円	616 千円	146,500 千円
	補 助 金	5,102 千円		56,197 千円
	水洗化貸付金回収金			165 千円
	固定資産売却代金	1 千円	1 千円	1 千円
	長期貸付回収金	1,285 千円		
支 出	資本の支出 (B)	186,303 千円	461,145 千円	885,534 千円
	建設改良費	151,363 千円		311,143 千円
	企業債償還金	33,940 千円	403,706 千円	551,554 千円
	長期借入金償還金		1,285 千円	
	負担金		55,154 千円	
	庁舎建設負担金			1,237 千円
	水洗化貸付金			600 千円
	予 備 費	1,000 千円	1,000 千円	1,000 千円
差引額 (A) - (B)		△114,715 千円	△236,628 千円	△288,771 千円

区 分	水 道 事 業	工業用水道事業	公共下水道事業
補てん額	114,715 千円	236,628 千円	288,771 千円
当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額	7,032 千円	2,627 千円	7,240 千円
過年度分損益勘定留保資金	44,683 千円	234,001 千円	157,994 千円
当年度分損益勘定留保資金			123,537 千円
減債積立金			
建設改良積立金繰入	63,000 千円		

## 平成24年度事業の経営方針

水道事業につきましては、給水人口の減少や景気の低及び節水意識の定着により、使用水量が年々減少していることで、非常に厳しい経営状況におかれています。

そうしたなか、いっそうの経費の節減等による経営の健全化に努めながら、老朽化施設の更新、耐震化を推し進め、いつでも安全で良質な水の安定供給の実現に向けて取り組んでまいります。

工業用水道事業につきましては、企業債償還利息や減価償却費が経営を大きく圧迫していましたが、平成20年度から企業との追加受水契約が締結されたことや企業債償還の平準化を図ったことで、経営の均衡がとれています。

引き続き、経営の健全化に努めるとともに、安定した工業用水の供給を行うことで、本市の産業の活性化に寄与するよう取り組んでまいります。

公共下水道事業につきましては、昭和35年より整備に着手し、昭和45年に供用が開始され、地方の小都市としては比較的早い時期から事業展開を行ってきました。

そのため、施設の老朽化による改築更新費が増大しており、また下水道使用料が年々減少していることで、非常に厳しい経営状況におかれています。

そうしたなか、いっそうの経費の節減等による経営の健全化に努めるとともに、安心して快適な生活を営むために不可欠な、良好な生活環境の維持と公共用水域の水質保全に取り組んでまいります。